

稻ワラの活用と新しい表現方法の研究

Research on the use of rice straw and new methods of expression

水永 健太



編む、漉くだけじゃない稻ワラの可能性。

編む、漉くとは違った視点から、稻ワラの新しい表現方法、活用方法を追求し、非木材紙の新たな可能性を見つけるきっかけになればと素材の研究を行った。

Possibilities of Rice Straw That Go Beyond Weaving and Straining

In my project, I conducted material research on rice straw from a perspective different from its conventional use – weaving and straining. My work aims to find new possibilities of expression and explore paper that is not derived from wood.



固める。削る。

繊維を厚く固め、乾燥させる事で板状に成形する。表面をやすりで削るとテクスチャが現れる。



繋げる。重ねる。

稻ワラと水だけで接着を行うこともできる。乾燥しきるまで完全な接着ができないため、形を固定する必要があるものの、表現の幅が大きく広がった。また、一度成形したものを粉碎し、繊維に戻することで、固く脆くなるが再利用することができる。



広げる。考える。

ワラパルプの魅力は、繊維が長く、加工性が高いことに加え、焼却時有害物質を排出しないこと、土に還ること、再利用できることなど多く挙げられる。日本で古くから身近にあった稻ワラという農業の副産物に今一度新しい形を与え、稻ひいては紙の在り方について改めて意識させることができると考える。